



2020年7月1日発行
1916年5月1日創刊
発行/小川健一郎
編集/大阪YMCA広報室
〒550-0001
大阪市西区土佐堀 1-5-6
Tel 06-6441-0894
Fax 06-6445-0297
URL: <http://www.osakaymca.or.jp>

YMCA 大阪青年

7・8



キャンプ100周年 ～組織キャンプの願い～

キャンプの意味を調べてみると、自然の中でテントを張って野営することと記載されています。皆さんが家族や仲間と自然の中でテントを張ったり、川遊びをしたりすることがキャンプです。このキャンプとYMCAが行っているキャンプは、同じキャンプという言葉を使い、同じような体験をしますが違うものです。YMCAのキャンプは組織キャンプと呼ばれているものです。

今から100年前、大阪YMCAが兵庫県西宮市にある南郷山（現在の阪急甲陽線苦楽園口駅付近）で青少年育成のためのキャンプを2週間実施しました。これが日本の組織キャンプの始まりでした。組織キャンプとはキャンプのねらいや目的を定め、それを達成するために組織的に計画して、訓練されたスタッフのもとで行うキャンプのことを指し、YMCAではこの組織キャンプを実施しています。

組織キャンプでもテントを張ったり、川遊びをしたりしますが、キャンプの目的を達成するための手段の一つとしてその体験を行います。YMCAのキャンプでは、年間を通じて研修を受けた指導者であるスタッフとユースボランティア

リーダーが、豊かな自然環境の中で、参加者が自主的に平和な社会を創る体験をするプログラムを生み出します。その体験の中で人と人との関係作り、自然との触れ合い、自分のいのちと他者のいのちを守ることが行われます。この体験を通して青少年の育成につなげています。

YMCAキャンプの目的は、すべてのキャンパー1人ひとりの「全人的な成長」、聖書によって示された人格の涵養を基礎とし、キャンプという非日常の体験を通して目的を実現としています。

さて、私たちが行っている組織キャンプは、主に自然の中で活動する野外キャンプですが、社会環境や生活様式の変化により、多様な価値観が生まれ、社会課題が複雑化しています。社会の変化に伴い、組織キャンプの目的、それを達成する手段も自然活動のみでなくサッカーやバスケットボールなどのスポーツキャンプ、アートやサイエンスなどの屋内キャンプがあります。キャンプの日数も長期、短期宿泊キャンプ、日帰りのデイキャンプがあり、参加者も幼児から青少年だけではなく、シニアも含めた様々

な世代、外国の人とのキャンプが行われています。YMCAが、現代社会の中で多様な組織キャンプを実施継続できたのは、その時代における社会や地域の課題に目を向けて、学校・シニア・こども園・保育園・ウエルネスなどの事業を展開してきたこと、100年間の組織キャンプを通して知識や経験が積み重なり、またYMCAのキャンプを通して育まれた人財、そして世界119の国と地域に広がるグローバルなネットワークがあるからです。

新型コロナウイルスのパンデミック、またICT技術をはじめとしたテクノロジーの進化により社会や生活様式が大きく変わろうとしています。変化した社会から新たな課題が生まれる一方、今まで取り組んできたが解決できない古くて新しい課題もあります。私たちの願いである、互いを認め合い、高め合う「ポジティブネット」のある豊かな社会の実現のために、社会状況やニーズにあった最善の手段を使いながら組織キャンプをこれからも行っていきます。

ウエルネス事業部 責任者 **宇堃 充洋**

■大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。

- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭・地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境・人権・貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

大阪YMCA創立138周年記念礼拝

統括本部 責任者補佐 **浜野 昌保**

大阪YMCAが創立された1882年6月4日を記念した創立記念礼拝を、新型コロナウイルス感染症予防のため、Yボランティアの皆さまと一堂に集う礼拝ではなく、WEB配信で5月30日(土)に開催しました。

大阪YMCA岩坂二親会長が司会をされ、日本聖公会大阪教区主教磯晴久先生に、「YMCAの使命—神様からの恵みの善い管理者を育む—」と題して奨励をいただきました。私たちは神さまから賜物を授かって、その賜物を生かして互いに仕えていくこと。また、YMCAが掲げる「ポジティブネット」の「ポジティブ」とは、ラテン語で「とりあえず置いてみる。まずやってみる。」という意味の言葉で、先が見えない時であっても一歩進むことが大切である。ただし、「とりあえず」「まずやってみる」

には、誤解や独りよがりが生じる可能性があり、それらを含めて支えるネットワークが必要だと教えられました。創立の志に立ち返り、心新たに未来に歩みを進めることを改めて誓いました。

来年の創立記念礼拝は皆がチャペルに集い、祈りを共にできることを願っています。

なお、この創立記念礼拝はYouTubeにてご覧いただけます。(大阪YMCAのホームページからアクセスしてください。)



みんなの声を聴きたい、届けたい YMCAポジティブネット アクション

学校事業部責任者 **鍛冶田 千文**

コロナ禍による休校が子どもたちへ与える影響を心配しています。そこで、国内外の子どもたちの生活がどう変わったのか、また、YMCAができることや行うべきことを考えたく、本プロジェクトを立ち上げました。手始めとして、5月の連休に国内外でアンケートを実施しました。海外はソウルYMCA、メトロポリタンYMCAシンガポールの協力をいただき、小学生メンバーと保護者、総計964人から回答を得ました。その結果を踏まえ、6月5日(金)に3ヶ国のYMCAでWEB国際会議を行いました。

アンケート結果では、①外出規制が続く中、家族と過ごす時間の増大、②家での過ごし方では「毎日学習している」が各国とも9割あること、③「楽しいこと」として、日本は「ゲーム」「テレビ」「家族と遊ぶ」の順でしたが、韓国とシンガポールは「家族と遊ぶ」が1番で、日本と違いが

みられたことがあげられます。

他に、子どもたちの生活は学校が中心で、友達や先生とのつながりを求めていることがわかり、親の心配としては「生活習慣」「運動不足」などが上位で、勉強より子どもの心身への気遣いが顕著でした。また、ユースボランティアリーダーへのねぎらいや、YMCAへの謝意が多く寄せられました。

同時期に実施した留学生対象のアンケートでは、「勉強がわからなくなる不安」の他に「アルバイトをしたい」と、生活困窮の訴えが多くありました。これを受けて、YMCAでは急きょ独自の「緊急支援奨学金制度」を立ち上げました。

本プロジェクトは、後日再アンケートを実施し、YMCAが社会教育団体として果たしている役割と意義について再考し、アクションを起こしていきます。



ソウルYMCA、メトロポリタンYMCAシンガポールとのWEB国際会議の様子



デニス・リー氏(メトロポリタンYMCAシンガポール 上席総支配人)

ユースボランティアリーダーOB・OGとの「Y-cafe」

公益協働事業グループ長 **菅 秀晃**

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言により、今までの日常とは違う生活を過ごすこととなりました。その期間は、テレワークやリモートワークなどを用いて外出をできるだけ避け、人との接触が大幅に減った2か月間でした。

ウェルネス事業部では、このような状況下にある子どもたちや家庭にどのような支援活動をすべきかを考えるにあたり、現状の課題を抽出する機会「Y-cafe」を設けました。ゴールデンウィーク期間にWEB開催し、のべ110人のユースボランティアリーダーOB・OGとスタッフが9つ

のグループに分かれ、情報交換・意見交換を行いました。

子どもたちの教育環境について、「学校以外から情報が入らない」という意見があり、今後有効な情報共有をオンラインで続けていく提案が多く寄せられました。また、「子どもたちのストレスがピークである」「給食がなくなり、食事を用意するのが大変である」など各家庭の状況が共有され、子育てをする母親への支援に向けての意見交換を行いました。YMCAの活動への期待が多く寄せられ、子どもたちの活動の場である各クラスの再開への原動力となりました。

また、どのグループもこの集まりに期待があり、今後もつながりを深めていきたいと思っています。

ICT等を使った取り組み

広域開発事業グループ長補佐 **猪口 武志**

ウェルネス事業では、新型コロナウイルスの影響の中、ICTを利用して子どもたちや保護者の方々との関わりを継続しています。Facebookでの動画配信や情報発信、オンラインクラスミーティングなどを実施しました。私たちYMCAのスタッフやユースボランティアリーダーが子どもたちとオンライン上で会える喜びだけではなく、子ども同士も久しぶりに会えたと、笑顔が絶えませんでした。「ステイホーム」が掲げられている中、子どもたちに社会とのつながりを感じてほしいという思いで取り組みました。

5月5日(火・祝)の子どもの日には、サッカークラスの子どもたち・スタッフで医療従事者や日常生活維持のため働かれている人々に感謝のメッセージ動画を作成し、SNSや動画サイトで発信しました。ニュースに

も取り上げられ、たくさんの方々へ感謝の声を届け続けています。この自由に外出できない期間に、社会の一員としてつながりを大切にすることは「ひと」を育むために非常に重要であることを再認識できました。



世界YMCA同盟の新型コロナウイルスへの対応

グローバル事業推進室 室長 **ドミニク・バングラッシオ**

新型コロナウイルスによって、YMCAの世界的な運動の回復力と適応性が試される機会となりました。世界YMCA同盟は加盟YMCAを迅速に支援するため、社会的距離と衛生に関する重要な情報の共有だけでなく、新型コロナウイルス収束後の経済的、社会的、また組織的な課題に備えるため、世界のYMCA関係者に向けた一連の6つのオンラインサポートとセミナーを主催しました。

国連のアミナ・モハマド副事務総長、2019年女子サッカーワールドカップで米国を優勝に導いたジル・エリス前監督、ハビタット・フォー・ヒューマンティのジョナサン・レックフォード代表など著名なゲストスピーカーにより、リーダーシップや戦略的な計画の立案、メンタルヘルス

と幸せなどのトピックについて、非常に有効な洞察が共有されました。スタッフ、ボランティア、メンバーが問題解決を基本にしたコミュニケーションを維持することの重要性、デジタルサービスを駆使したコミュニティサポートプログラムのオンライン化、さらにはYMCAブランドの力を活用して社会にある課題を確実に解決することが共有されました。新型コロナウイルスの収束後、加盟YMCAおよび各地域同盟レベルで何をすべきかをテーマに議論もなされました。全講演者が、私たちの世界は常に変化し続けていることを指摘しました。この変化により、気候変動や貧困格差などの大きな問題が発生しました。これらの原因となっている過剰消費や個人の富を増加させることに重点を置きすぎた政府レベルでの政策の変更を成し遂げなければならないとしています。



第8回YAPUNカンファレンス開催

公設民営事業グループ長 **箕浦 史郎**

第8回アジア太平洋YMCAアーバンネットワーク(通称YAPUN)カンファレンスが実施されました。今回は大阪YMCAがホストを担いましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、初めてオンラインミーティングの方法が取られ、8つの国と地域の10のYMCA*が集まりました。参加したYMCAの多くはコロナ禍での運営に苦慮していますが、このような時にこそ、それぞれのYMCAで海外YMCAとの「つながり」の大切さを改めて感じる機会となりました。

今回のYAPUNでは、これまでのアクアティック、介護予防のサブコミティに加え、CAMPと総合研究所が加わりました。CAMPサブコミティでは、今夏に予定していたワールドキャンプに代わり、ICT技術を使ったつながりを基にした新たなキャンプ像への取り組みなどパイロットプログラムに向けた話し合いがされました。総合研究所サブコミティでは、

YAPUNの参加YMCAが持っているリソースを集約し、YAPUN参加YMCAで有効活用とブランディングを目的としたリソースハブ構想が話し合われました。直接集まることのできない今だからこそ、各YMCAの知見を活かし、協働することにより、新たな事業が生み出されようとしています。



*台北、台南、南投、ソウル、メトロポリタン(シンガポール)、香港、ビクトリア(オーストラリア)、ノース(ニュージーランド)、マンダレー(ミャンマー)、大阪

YMCA阿南国際海洋センター 本館改修工事完了しました！

かん だ ひとし
 徳島事業グループ長 菅田 斉

1968年の開設から50年が経過したYMCA阿南国際海洋センター。そのシンボルでもある本館の建物強度を高めるための改修リニューアル工事が、5月中旬に完了しました。塔屋部分と内部らせん階段の撤去により、太陽の光が注ぐ明るく広い空間が新しく生まれました。これからも多くのキャンパーを迎え、大海原をフィールドとした多様な活動を通じた青少年の育成の拠点になることを楽しみにしています。



1970年代の本館塔屋と屋上



新しい本館屋上



本館内部、広がる空間

第26回 大阪YMCAチャリティーラン2020 開催のお知らせ

- 【日時】 2020年9月26日(土)9:00~13:00
 【場所】 花博記念公園鶴見緑地 特設コース
 【申込締切日】 2020年8月31日(月)

大阪YMCAチャリティーラン2020 検索

【お問い合わせ】 大阪YMCAチャリティーラン事務局
 TEL:06-6441-0894 FAX:06-6445-0297
 MAIL: chari-run@osakaymca.org

※新型コロナウイルス感染症の状況により、変更の場合があります。

大阪YMCA早天祈祷会

■第327回 日時...2020年7月17日(金) 7:30~8:15
※朝食会はございません。
 奨励...辻 マリア さん
 (ホーリーバイブルチャーチ伝道師)
 場所...大阪YMCA会館 10階 チャペル

■第328回 日時...2020年8月21日(金) 7:30~8:15
※朝食会はございません。
 証し...橋本 健 さん
 (大阪YMCA国際専門学校高等課程
 表現・コミュニケーション学科 スタッフ)
 場所...大阪YMCA会館 10階 チャペル

大阪YMCA「安全の日」について

大阪YMCAでは、屋外での活動の機会が多くなる本格的な夏を迎えるにあたり、毎年7月18日を大阪YMCA「安全の日」と定め、「生命」の大切さと自分自身の「安全」と他者の「安全」を考える機会として、「安全キャンペーン」を実施しています。

今年、私たちは、新型コロナウイルスのパンデミックが起きる中、自分自身そして周りの「生命」をどのように守ればいいのかを考えることに直面しました。しかしながら新型コロナウイルスだけでなく、日常生活の中で多くの危険なことがあります。知らず知らずのうちに見過ごしたり、気づかなかつたりすることがあります。自分自身は気をつけていても、思わぬ災難、災害の当事者になることもあり、単に軽い怪我だけでなく、尊い生命までも失ってしまうことさえあります。

たった一つしかない自分の「生命」を自分自身で守っていくために、そしてYMCAが大切にしている価値(思いやり、誠実さ、尊敬心、責任感)にも関連し、自分自身と他者の「安全」を考えていくために、この「安全の日」を機会にもう一度、身の回りの安全について、ご家族やお友だちと一緒に考えてみましょう。

なお、大阪YMCAでは、新型コロナウイルス感染防止の取り組みやウォーターセフティーキャンペーンを通じて、「生命」の大切さについて考える機会を設けています。残念ながら、早くも水難事故が各地で起きています。有意義な夏を過ごすためにも、身体には十分に気をつけて、皆で「生命」を守る行動をとっていきましょう。

ユースリーダー安全支援金ご協力のお願い

大阪YMCAでは、YMCA運動を支え発展させていく担い手であるユースボランティアリーダーの安全と研鑽のために、研修などに用いられる募金を行っています。皆さまのご協力をお願いいたします。

- 【募金方法】 一口 1,000円
 【募金期間】 7月18日(土)~9月30日(水)
 【受付窓口】 各YMCA、大阪YMCA統括本部
 (06-6441-0894)

クレジットのご利用も可能です。
 以下URLからお願いいたします。

<https://kifu.fm/osakaymca/form.php> ▶



会員・賛助会員としてのご協力に 感謝申し上げます。

2020年5月度報告・敬称略

【継続会員】

石川 悟
 大岸 弘子
 大東 義史
 川岸 清
 川端 康彦
 河本 武久
 川本 博信
 桑原 頼子
 在日本韓国YMCA
 坂田 茂
 清水 汎
 卜田 昭子

卜田 啓三
 小路 修
 杉本 恵俊
 武井 和子
 谷川 俊一
 丹吾 礼
 津田 誠
 西井 正道
 西村 和雄
 学校法人
 日本社会事業大学
 橋本 照夫
 畠平 恵子

福島 真一
 藤井 道雄
 藤田 貴大
 松野 五郎
 丸尾 欽造

水野 善夫
 森田 照美
 柳谷 利起
 山崎 太詩
 和田 早苗

【新規賛助会員】
 脇大輝税理士事務所

【継続賛助会員】
 株式会社西島製作所

大阪YMCAのホームページで
 その他の情報をご覧いただけます。

